

マルワリード II 灌漑路整備進行、増水期を前に護岸工事に全力

ガンベリ主幹排水路あと 100m

トルハム国境閉鎖つづく

みなさん、お元気ですか。ジャララバードは気温が日に日に上がり、雨季は明きました。野外の陽射しが強烈で、肌に突き刺さるようです。

難民関係；冬期に一時中断した難民送還が再開されるので、余りのんびりとも出来ません。（州政府は先にガンベリとカチャラに難民キャンプ設置を決定したものの、カチャラについてはまだ検討中とのことです。）国境は閉じられたままでしたが、カマ郡全体、シェイワ郡クナール河左岸（カシコート、カチャラ、ベラ、コーティ、タラーン）は、事実上パキスタンのモハマンド自治区と連続しており、冬期も休みなく難民帰還が続いていました。

ミラーンはカマ・ベスード・シェイワの三郡の合する所で、国道沿いに長大なバザールが出現しました。2年半前にミラーン堰着工当時、閑散とした農村だったのに、今や、まるでジャララバード市の一角のような賑わいです。ペシャワールから逃れてきたリキシャと人の波で国道が埋まり、交通渋滞が日常的になっています。おそらく帰還難民の大半が同地周辺の出身で、一挙に人口が増加したと思われます。ガンベリ地域でもテント群がみるみる増え、PMSも実情調査に乗り出しています。小生の印象では2,000家族、話では4,000家族と述べる者もあります。おそらく自分の村に帰郷できない人たちで、今のところ大きなトラブルはありませんが、調査を待ちたいと思います。

M2 堰；ほぼ予定通りに進行、コーティ用水は950m中250mを完了して工事先端は650m、沈砂池は3月～4月中に完成見込み、植樹は河周りに柳枝工が進行中です。護岸線は現在2.2 km地点を工事中。

同地域に帰還した失業人口を吸収するように、急がない作業はなるべく手作業で人海戦術を採用、現在約200名が働き、更に280名まで増員予定です。全体から見れば一部ではありますが、主要灌漑網が成れば、相当な人々が農地整備や農業活動に吸収されると見えています。

PMSとしては、カチャラ村を「難民対策の最前線」と位置づけ、灌漑網整備を急ぎたいと考えています。

ガンベリ主幹排水路；約1.8 km中1.7 kmを工事中。ここでも多くの帰還難民が働いています。

既存の堰；おそらく人口増で水需要が高まったためか、このところ一部で取水量不足が続きました。降雨がなく、マルワリード堰、カマ I・II 堰で臨時の堰上げ措置が行われています。

訓練所；現在、二階部分を建設中。FAOの求めに応じて洪水防御壁を巡らせています。ただとても専門技師を指導する力量はなく、「現場監督を中心とする実地訓練」であることを強調。PMS技師の訓練が先で、こちらを急いでいます。

閉鎖中のトルハム国境が本日開かれました。しかし、難民送還再開をも意味します。嵐前の静けさで、目に見えぬ大きな動きを感じています。先に報告したように、「緑の大地計画」が大量の難民を吸収し、今や「東部混乱の防波堤」という意味合いを強めています。ここは力を併せてひと踏ん張りする局面です。重ねて事務局の協力をお願い申し上げます。平成29年3月20日

移動し始めた遊牧の群れ。カチャラ、コーティ、タラーン、ベラの各村は遊牧民とも関係が深く、一部は定住し始めている。彼らのネットワークは全アフガニスタンに及び、政情に関知しない。全てパシュトゥン人で、カンダハール方面が中心と見なされている。東部の出来事は全土にたちまち伝わる。彼らの移動が季節を告げる。カチャラ村にて 2017年3月17日



マルワリードⅡ取水門を対岸から見る。2017年3月20日



取水門の正面。付近の整地とチャルハの装着が行われている。2017年3月20日



取水門側から堰を見る。水位は1月のレベルに戻っている。2017年3月17日



既存のカチャラ用水路に注ぐ分水門。スリット状の柱でせきあげ、土砂を濾す。2017年3月20日



カチャラ用水路への流量は毎秒 $0.5 \sim 0.6 \text{ m}^3$ 、夏の水量に匹敵し、十二分な量を送る。2017 年 3 月 17 日



取水口を下流から眺める。護岸上部の巨礫間にヤナギの密植が行われている。ヤナギは激しい洪水流には力がないが、上部の土崩れを防ぐ。また巨礫間の密植で上部の転動をかなり防げる。2017年3月17日



沈砂池Ⅰの排水門Ⅱからの流出路。たたきは基礎から頑丈に作ってある。2017年3月17日

